

図書館だより



ふじさわ

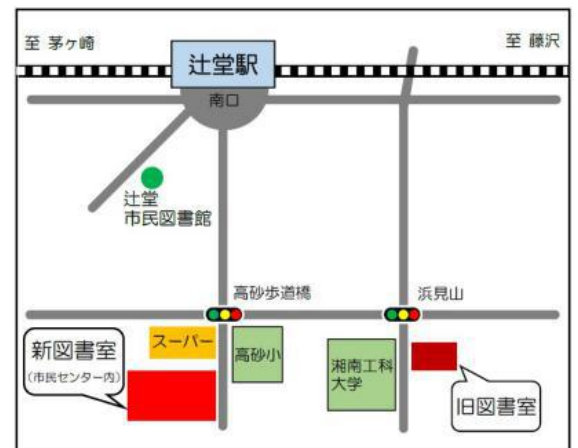
- 新・辻堂市民図書室がオープン！・・・・・・・・・・・・・・・・P1
- 辻堂ゆめさんによる講演会を実施しました・・・・・・・・P2
- 司書司書ばなし 特別整理ってなあに？・・・・・・・・P3
- 市内在住の児童文学作家 こまつあやこさんが
日本児童文学者協会新人賞を受賞！！／館長コラム・・・・・・・・P4

新・辻堂市民図書室オープン!

辻堂市民センター・公民館の改築移転に伴い、
2021年8月12日（木）に市民図書室が新しくなって開室しました。
明るく解放感のある図書室になりました。
図書室の入口には、カウンター式の閲覧スペースがあり、新聞や貸出手続きをした本を読むことができます。
ぜひ一度、新しい図書室へお越しください。



新・辻堂市民図書室 案内図



住所：藤沢市辻堂西海岸 2-1-17

- 【市民図書館】 総合市民図書館（Tel.43-1111）南市民図書館（Tel.27-1044）辻堂市民図書館（Tel.35-0028）
湘南大庭市民図書館（Tel.86-1666）
- 【市民図書室】 長後（Tel.43-7655） 明治（Tel.35-7095） 辻堂（Tel.35-7076） 村岡（Tel.28-6939）
片瀬（Tel.28-6935） 遠藤（Tel.88-6235） 六会（Tel.83-4686） 善行（Tel.83-4687）
藤沢（Tel.28-6895） 鶴沼（Tel.35-7096） 御所見（Tel.48-4675）

小説を「読んで」「書いて」広げる 他者への想像の翼



～辻堂ゆめさんによる

オンライン講演会を実施しました～

6月19日（土）午後5時半から午後7時半まで、総合市民図書館にて、辻堂ゆめさんを講師にお招きし、ZOOMを使用したオンライン講演会を行いました。

当日は約80名の方々にご参加されました。

辻堂ゆめさんには、他者を思いやることの大切さについて、自身の生活や、本を読んで得られたことを例に挙げてお話ししていただきました。

また、講演の最後には、参加者の方々からの質問をチャットで募集し、いくつかお答えいただきました。今回は、その内容について皆様にご紹介します。

Q1 普段どれくらいのペースで本を読んでいますか？

小説を書きながら子育てもしているのであまり時間は多く取れないのですが…最低でも一週間に1冊以上は読みますね。

Q2 小説を書き始めたきっかけは何ですか？

完全に趣味ですね。私は小説だけでなく音楽もそうなんですけど、見たり聴いたりすると、「私にも作れるんじゃないかな？」とってしまうんですね。小さい頃から読んできた小説は、書いてみたらある程度形になって楽しい！と思えました。実は小学生くらいから、ホチキスで紙を留めて、物語と絵を書いたものをよく母に見せていました。中学生になってから短編小説、中編…高校生になってから長編と、マラソンのように書ける量が増えていったという感じです。

Q3 小説を書いている学生です。書く時のおすすめ手順はありますか？

私の場合、入口から考えることが多いです。「こういう事件が最初に起きたらどうか？」「こういう男の子と女の子が出会ったらどんな化学反応が起きるか？」など、ワクワクするような設定を考えます。そのあと、大まかに起承転結を組み立てていきます。やっぱり小説は事件などの波（展開）がないとお話にならないので。大まかなイメージが固まったら、細かいシーン（プロット）まで考えてから執筆しています。

司書司書ばなし

～特別整理ってなあに？～

図書館は、「特別整理」の期間は休館しています。では、「特別整理」ってなんでしょう？

「特別整理」は、図書館で所蔵している資料が正しく管理されているか点検することで、「蔵書点検」などとも呼ばれています。

ばくしょ

古くは「曝書」といい、一年に一度、蔵から本を出して虫干しをする作業をしていました。

現在は電子化により、本、紙芝居、CD、DVDなど図書館で所蔵しているすべての資料を棚から1点ずつ出し、バーコードリーダーでバーコードを読み取り点検する作業を行います。



例えば、湘南大庭市民図書館では、今回の「特別整理」で、28万点の資料を点検しました。想像以上に体力勝負の仕事です。

そのほかにも、傷んだ本の修理や大規模な書架の整頓もしています。図書館にとって「特別整理」は、みなさんに気持ちよく図書館をご利用いただくためにとても重要な仕事といえます。

お知らせ

8月26日から総合市民図書館の調査研究室の利用方法が変わりました

必要な荷物以外は、原則ロッカーに預けていただくようになりました。

貴重品・筆記用具等は、備え付けの透明な袋に入れて持ち込みができます。

（詳しくは館内掲示、図書館ホームページをご覧ください。）

市民の大切な財産である図書館資料を永く保存し、将来に渡って永くご利用いただけるように、ご理解ご協力をお願いいたします。



市内在住の児童文学作家 こまつあやこさんが 日本児童文学者協会新人賞を受賞！！

市内在住の児童文学作家こまつあやこさんが、小説『ハジメテヒラク』（講談社）で第54回日本児童文学者協会新人賞を受賞されました。デビューから2作目での受賞です。

日本児童文学者協会新人賞は、あまんきみこさんの『車のいろは空のいろ』（ポプラ社）が受賞して以来、50年以上も続く歴史ある文学賞です。過去には灰谷健次郎さんや、上橋菜穂子さんも選ばれた賞であり、幅広く親しまれている作品が多数あります。

子どもの頃から作家になる夢を持ち、本と図書館が大好きで、現在は司書として図書館で働くこまつさんから藤沢市の10代のみなさんへメッセージをいただきました。

こまつあやこさんからのメッセージ

「藤沢市の10代のみなさんへ
みなさんにとって、図書館はどんな場所ですか？
図書館がなければ作家になれていなかった、
と言ってもいいくらい、私にとって大切な場所です。
みなさんも、図書館で過ごす時間を楽しんで下さいね！」



館

長

コ

ラ

ム

若者の本離れが深刻です。令和元年に総合市民図書館で実施したアンケートの中で、1か月に読んだ本の冊数を聞いたところ、0冊と答えた人の割合が、「16～17歳」が34.8%、「中学2年生」が7.9%、「小学5年生」が4.8%、「小学2年生」が1.2%でした。

藤沢市では、「すべての子どもが本に親しむことができるまち ふじさわ」を基本理念とする「ふじさわ子ども読書プラン2025～第4次藤沢市子ども読書活動推進計画」を2021年3月に策定いたしました。この計画は4つの目標（①すべての子どもを「読書」の楽しさへ誘う②子どもの「読む力」を育み、伸ばす③地域のちからをつなげる④みんなで子どもの「読書」を見守る）のもと、変わりゆく社会状況を踏まえ、今までの取り組みを継続しながら、子どもの読書活動の推進を図っていくものです。

どうぞ皆様におかれましては、この計画の趣旨をご理解いただき、子どもの読書を大人があたたかく見守るとともに、大人自身も読書に親しむ環境づくりに、ご理解とご協力をお願いいたします。

総合市民図書館長 市川雅之

